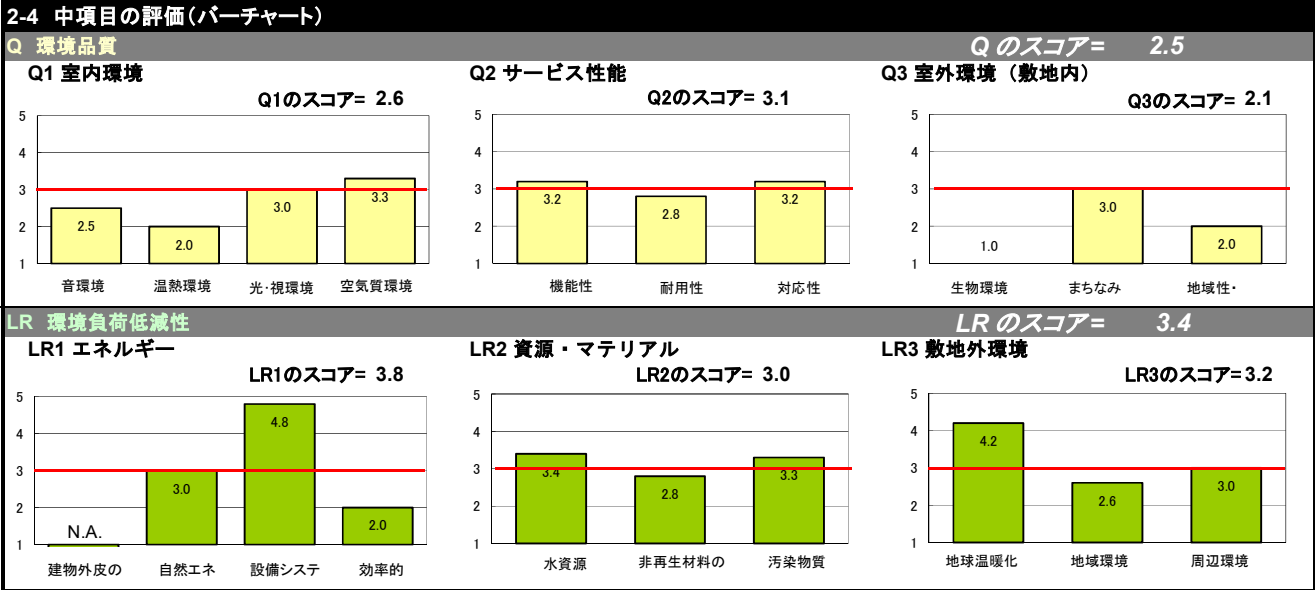
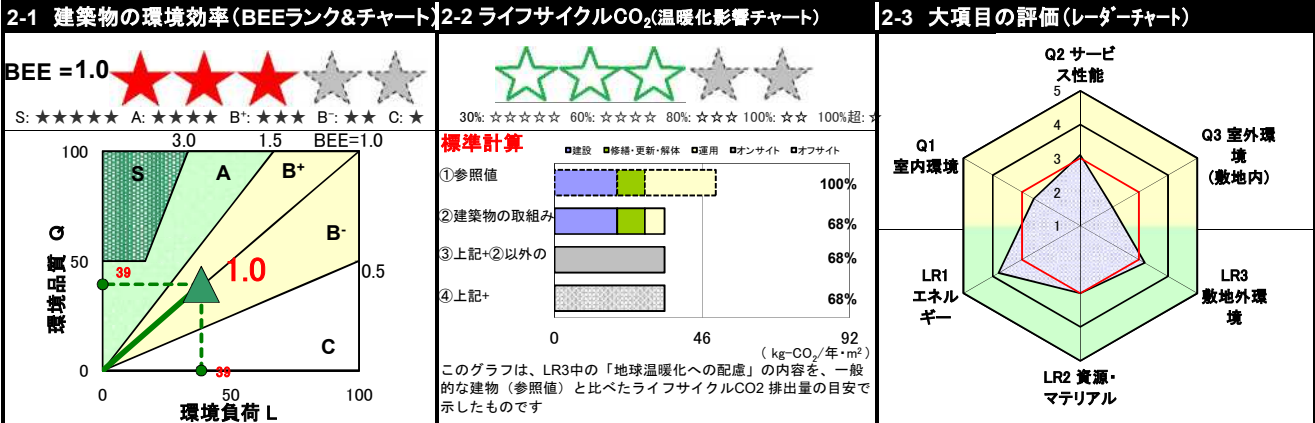


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

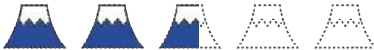
■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	中央区下石田町 株式会社ダイセン	階数	地上3F
建設地	静岡県浜松市中央区下石田町字皆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	0 人
地域区分	6地域	年間使用時間	0 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年2月 0.0	評価の実施日	2025年3月6日
敷地面積	6,112 m ²	作成者	株式会社飯田組一級建築士事
建築面積	2,407 m ²	確認日	2025年3月6日
延床面積	3,913 m ²	確認者	株式会社飯田組一級建築士事務所



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
・これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。		0
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・各室毎調整可能である。マルチヒートポンプ方式 ・仕上材等の建材は、F☆☆☆☆を使用している。	・階高は3.65mである。 ・省水型便器を採用している。	・景観条例に準じている。 ・敷地周囲に緑地を設けている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・モデル建物法でBELmは0.28である。	・省水型便器を採用している。 ・断熱材はグラスウール、スタイロフォームを採用している。	・駐輪場・駐車場の数・導入路・配置等、配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要										
建物名称	中央区下石田町 株式会社ダイセン様 第1工場 新築工事				BEE	1	BEEランク	B+	★★★	
2. 重点項目への取組み度										
重点項目	得点※/満点		取組み度				評価			
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.7	/5					ふつつ			
”災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	2.6	/5					がんばろう			
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	2.7	/5					がんばろう			
”緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.0	/5					がんばろう			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例		よい 4 点以上		ふつつ 3 点以上		がんばろう 3 点未満	
3. 重点項目についての環境配慮概要										
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。					内訳対応項目					
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)					得点		3.7			
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①事務所部分の屋根は二重葺断熱折板を採用している。				Q-1	2	2.1	2.2	①	外皮性能
					Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備
							3.2	3.2.1	③	昼光制御
					Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数
								2.2.2	④	外壁仕上材の補修必要間隔
								2.2.3	④	主要内装仕上材の更新必要間隔
								2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔
								2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔
								2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地周囲に緑地を設けている。				Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出
					3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上	
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率の運用) ⑦事務所部分の屋根は二重葺断熱折板を採用している。				LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制
						2			⑧	自然エネルギー利用
						3			⑨	設備システムの高効率化
						4	4.1		⑩	モニタリング
							4.2		⑩	運用管理体制
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪省水型便器を採用している。 ⑬断熱材は、グラスウール、スタイロフォームを採用している。				LR-2	1	1.1		⑪	節水
							1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無
								1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無
						2	2.1		⑫	材料使用量の削減
							2.2		⑫	既存建築躯体等の継続使用
							2.3		⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用
							2.4		⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
							2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材
							2.6		⑫	部材の再利用可能性向上への取組み
						3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用
							3.2	3.2.1	⑬	消火剤
								3.2.2	⑬	断熱材
								3.2.3	⑬	冷媒
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2排出率は68%である。				LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮
						2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善
”災害に強いしずおか”の形成(Disaster)					得点		2.6			
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯地域係数Z=1.2にて構造計算している。				Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性
								2.1.2	⑯	免震・制振性能
							2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備
								2.4.2	⑰	給排水・衛生設備
								2.4.3	⑰	電気設備
								2.4.4	⑰	機械・配管支持方法
								2.4.5	⑰	通信・情報設備
	”しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)					得点		2.7		
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ㉑階高は3.65mである。ラーメン構造を採用し、壁長さ比率=0.087である。				Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画
						3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり
								3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ
					Q-3	3	3.1		⑳	地域性への配慮、快適性の向上
”緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)					得点		2.0			
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ㉒景観条例に準じ、敷地周囲に緑地を設けている。				Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出
						2			⑥	まちなみ景観への配慮
						3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上
	■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) 特になし				LR-2	2	2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材
					LR-3	2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善